

本町通り商店街エリア ウォーカブル勉強会（第1回）

【開催概要】

- ・ 日 時：令和7年7月29日（水）
19:00～20:00
- ・ 場 所：本町チャレンジBASE
- ・ 内 容：①市街地中心部の取り組み
②（株）セキ日和について
③ワークショップ
- ・ 参加者：4名



市街地中心部の取り組み

これまでの取り組み

- 令和7年度の社会実験
 - ・ 令和8年3月14日から22日まで
 - ・ 本町1丁目から8丁目の区間
- 内容
 - ・ 歩道と軒先の一体的活用
 - ・ 広場活用の検証
 - ・ 減速マーク設置による通車車両の速度抑制効果の検証
 - ・ 滞留を促すコンテンツの提供（木育事業）
 - ・ 官民連携による関係人口の創出

今後の方向性

本町1・2丁目部会
・ 惟然市の定期開催

本町3・4・5丁目部会
・ 遊休不動産の活用検討

本町6・7・8丁目部会
・ 本町ゴザール定期開催

ウォーカブル勉強会（R6年度～）
（先進事例の共有、社会実験の検証、今後の在り方検討等）
対象：地域住民、商工会議所、観光協会、行政等

エリアプラットフォームの構築（R9年度～）
（官民連携の強化、ソフト事業の展開、整備計画の策定等）
対象：地域住民、商工会議所、観光協会、交通事業者、まち会社、行政等

株式会社セキ日和について

◎令和8年6月30日に関市で初の都市再生推進法人に指定

1. 背景とアプローチ

- ・ セキ日和が思う関の魅力は「昭和の景観」（セキ日和来場者アンケートでも多くの声）
- ・ 人口減少に伴い、人が減る一方面積はそのまま
 - まちに核がないと行政サービスやハード整備はのっぴり分散してしまう
- ・ 時代は「壊して建てる」から「あるものを生かす」へ

2. 「再編集」

- ・ マルシェ「セキ日和」は関の日常風景を編集し直して見せる装置
 - 空き店舗を会場にする所有者が「貸す」を体験
 - 出店者を選ぶ、景観に合うか、担い手になり得るか
 - 日常に溶け込ませる、派手な装飾はせず「賑わう関の日常」そのものをつくる
- ・ 狙いは来場者、物件所有者、出展者、地域住民のマインドチェンジ
- ・ 4回でのべ約15,500人が来場

3. 今後の展望

- ・ 中濃交通ビルを年2日の出店者に「もっと関わりたい」と言ってもらえる場所へ。
- ・ まちなかの役割分担「本町チャレンジBASE」事業化段階「中濃交通ビル」関わり・実験・表現段階
- ・ 完成形を決めず、運営しながら姿が定まる施設へ
 - 2026年9月～改修スタート
 - 2026年11月マルシェ「セキ日和」で活用
 - 2027年3月～簡易的なカフェオープン
 - 将来的に1日から1晩へ

<ワークショップ>

昨年度実施の子育て世代アンケートより
本町通りに来ない理由は、「来る目的がない」

Q. 子育て世代が出かけたくなる関市の中心部としての魅力をつくるためにどんなことができそうか。

（地元店主）

- ・ 楽器製作WSと打楽器セッション
- ・ 割りばし鉄砲WS大人が監督し、年代分けて楽しむ
- ・ 人間スタンプラリー（毎月変わるお題の店主を探して挨拶したらスタンプがもらえる）
- （学校関係者）
- ・ 木片積み木、ドミノ、幼児が考えて高校生が形に（まちづくり会社）
- ・ 子どもミュージアム商店街の開催（お仕事体験）